

パキスタン

Islamic Republic of Pakistan

①人口：1億6,237万人
(2008年7月)
②面積：79万6,096km²
③1人当たりGDP：1,044米ドル
(2008年)

	2006/07年度	2007/08年度	2008/09年度
④実質GDP成長率(%)	6.8	4.1	2.0*
⑤貿易収支(米ドル)	△94億9,500万	△148億9,500万	△94億200万*
⑥経常収支(米ドル)	△73億6,100万	△141億6,300万	△77億7,500万*
⑦外貨準備高(米ドル)	115億4,310万	140億4,400万	71億9,420万
⑧対外債務残高(米ドル、年度末)	404億8,100万	462億8,400万	501億3,900万*
⑨為替レート(1米ドルにつき、 パキスタン・ルピー、期中平均)	60.27	60.74	70.41

[注] *暫定値。年度は7月～翌年6月。⑤⑥：2008/09年度は7～4月。⑦⑧：2006, 2007, 2008年の暦年。⑨：2008/09年度は2008年3月末

[出所] ①②④：パキスタン連邦統計局(FSB), ③⑦⑨：IMF(IFC), ⑤⑥⑧：パキスタン中央銀行(SBP)

■ IMF、支援国会合で緊急融資が決定

2007/08年度(2007年7月～2008年6月)の実質GDP成長率は、食糧やエネルギー価格の高騰、国内産業に対するエネルギー不足、農産物生産の減少などの影響で、前年度の6.8%を下回る4.1%となった。2008/09年度は、主要な経済指標が軒並み悪化し、パキスタンに対する信用格付けが低下した。こうした厳しい経済環境を反映して2009年6月に発表された経済白書では、2008/09年度の実質GDP成長率の暫定値が2.0%となった。

2008年10月には、外貨準備高の大幅な減少をきっかけにパキスタン政府がデフォルト(債務不履行)に陥るのではないかと憶測されたが、同月下旬にIMFが76億ドルの緊急融資を行うことが決定し、安堵感が広がった。2009年4月17日には、パキスタン支援国会合が東京で開催され、2年間で総額50億ドルを超える支援表明があった。

31カ国とIMFを含む国際機関が参加し、日本は、2008年11月に決定したIMFプログラムが着実に行われることを前提に、最大10億ドルの支援を行うことを決めている。

■ 懸念の貿易赤字、2008年11月以降は減少

パキスタン連邦統計局(FSB)によると、2008/09年度の当初9カ月間(2008年7月～2009年3月、通関ベース)の貿易額は、輸出が前年同期比0.1%減の134億1,400万ドル、輸入が6.6%減の261億2,400万ドルとなった。その結果、貿易赤字は12.5%減の127億1,000万ドルとなり、ここ数年、増加の一途をたどっていた貿易赤字に歯止めがかかりつつある。10月までは毎月35億～40億ドルで推移していた輸入額が、11月は27億ドル、12月は21億ドル、1月は25億ドルと大幅に減少したことによる。これは輸入の大きなウエートを占めている石油、小麦、バーミュ油などの輸入価格の下落と、金融引き締め政策やル

表1 パキスタンの主要品目別輸出入<通関ベース>

(単位：100万ドル、%)

	輸 出 (FOB)				輸 入 (CIF)				
	2007/08 年度		2008/09年度 (7月～3月)		2007/08 年度		2008/09年度 (7月～3月)		
	金額	金額	構成比	伸び率	金額	金額	構成比	伸び率	
コ メ	1,836.1	1,521.5	11.3	52.7	石 油 製 品	6,240.9	4,248.4	16.3	6.5
綿 布	2,010.6	1,488.3	11.1	3.5	原 油	5,222.0	3,167.1	12.1	△7.6
ニ ッ ト ウ エ ア	1,872.0	1,317.9	9.8	△4.8	發 電 機	1,177.7	1,202.5	4.6	63.0
ベ ッ ド ウ エ ア	1,903.5	1,259.1	9.4	△11.7	バ 一 ム 油	1,616.6	1,019.8	3.9	△6.2
既 製 服	n.a.	919.2	6.9	△13.1	鉄 鋼	1,330.5	976.0	3.7	5.3
綿 糸	1,301.0	823.0	6.1	△15.5	小 麦 (未 製 粉)	860.0	874.6	3.3	36.9
化 学 ・ 医 薬 品	619.2	469.5	3.5	7.5	ブ ラ ス チ ツ ク	1,301.7	853.0	3.3	△10.9
タ オ ル	613.1	469.0	3.5	7.0	通 信 機 器	2,246.4	788.2	3.0	52.4
皮 革 製 品	699.5	425.5	3.2	△19.7	自 動 車 お よ び 二 輪 車	1,284.9	682.5	2.6	△30
セ メ ン ト	n.a.	415.8	3.1	60.4	電 気 機 械 ・ 器 具	766.6	603.5	2.3	10.8
合 計	19,052.3	13,414.4	100.0	△0.1	合 計	39,965.5	26,124.0	100.0	△6.6

[注] ①2008/09年度(7月～3月)は暫定値。

②表2～4とも、伸び率は前年同期比。

③2007/08年度と2008/09年度(暫定値)の商品分類は異なる。そのため2007/08年度の既製服とセメントはn.a.とした。

[出所] パキスタン連邦統計局(FSB)。

表2 パキスタンの主要国・地域別輸出入<国際収支ベース>

(単位:100万ドル, %)

	輸 出(FOB)				輸 入(FOB)				
	2007/08 年度	2008/09年度 (7月~3月)			2007/08 年度	2008/09年度 (7月~3月)			
		金額	金額	構成比		金額	金額	構成比	
米 国	3,740.1	2,712.5	18.7	△2.3	アラブ首長国連邦(UAE)	5,129.2	3,503.5	14.6	1.0
アラブ首長国連邦(UAE)	1,722.3	1,099.3	7.6	△6.5	サウジアラビア	3,609.7	2,420.4	10.1	△1.1
アフガニスタン	1,031.7	742.8	5.1	3.5	中 国	3,029.5	2,034.5	8.5	△6.4
英 国	1,071.4	726.6	5.0	△5.3	ク ウ エ ト	2,439.3	1,900.4	7.9	21.1
ド イ ツ	826.3	624.9	4.3	5.5	シ ン ガ ポ ー ル	1,694.9	1,148.3	4.8	△3.4
中 国	674.1	479.6	3.3	1.8	マ レ ー シ ア	1,269.5	1,035.8	4.3	12.3
イ タ リ ア	679.4	470.7	3.2	△1.9	ド イ ツ	1,322.5	866.5	3.6	△8.7
香 港	697.2	397.0	2.7	△26.3	日 本	1,473.5	866.0	3.6	△20.4
ス ペ イ ン	518.7	341.1	2.4	△8.3	フ ラ ン ス	542.7	830.6	3.5	98.5
オ ラ ン ダ	434.3	335.0	2.3	6.6	米 国	1,503.0	787.3	3.3	△31.7
合 計	20,426.9	14,491.0	100.0	1.2	合 計	35,472.2	24,001.0	100.0	△5.2

〔注〕①再輸出、再輸入を含む。

②2007/08年度、2008/09年度(7月~3月)とも暫定値。

〔出所〕表3.4とも、パキスタン中央銀行(SBP)。

ペー安による需要抑制が効いたことが要因である。

輸出が減少した最大の要因には、世界的な不況で主要輸出先での需要が減少したことが挙げられる。とりわけ、主要品目である繊維・同製品が前年同期比7.6%減となり、足を引っ張った。パキスタン・ルピーの対米ドル為替レートは、2007/08年度の1ドル60ルピー前後から、2008年10月には80ルピー前後へ約25%下落したが、輸出の追い風とはならなかった。

品目別では、綿布が前年同期比3.5%増となったものの、ニットウエアが4.8%減、ベッドウエアが11.7%減、既製服が13.1%減、綿糸が15.5%減と、主要品目は軒並み減少した。繊維産業は中国、インド、バングラデシュなどの周辺国との競争が激化したことに加え、20%を超えるインフレによるコスト高や、電力やガスなどのインフラ不足により苦戦を強いられている。

輸出を主要相手国・地域別(2008年7月~2009年3月、国際収支ベース)にみると、最大の輸出先である米国が前年同期比2.3%減となり、以下、アラブ首長国連邦(UAE)が6.5%減、アフガニスタンが3.5%増、英国が5.3%減となっている。輸出全体に占める米国のシェアは18.7%と高く、米国の個人消費低迷の影響を受けやすい構造となっている。

輸入品目別(2008年7月~2009年3月、通関ベース)は、石油関連が大きなウエートを占めており、石油製品および原油を合わせると輸入総額の28.4%となる。前年同期比の伸び率では、石油製品が6.5%増、原油が7.6%減となった。両品目とも2008年後半以降の国際価格の下落に伴い、輸入額が減少傾向にある。発電機は、電力不足による需要増により63.0%増と大幅に伸び、パーム油を抜き3位の輸入品目となった。小麦は、国内需要に対する供給の不足から、輸入は36.9%増となった。パーム

油は、国内の種油の生産が増加したことや価格の上昇で需要が減少したため、6.2%減となつた。

主要相手国別では(2008年7月~2009年3月、国際収支ベース)、UAEが1.0%増、サウジアラビアが1.1%減、中国が6.4%減となっている。

■投資は通信、金融で減、採掘、食品包装で増

パキスタン中央銀行(SBP)の発表によると、2008/09年度の当初9カ月(2008年7月~2009年3月)の対内直接投資額(国際収支ベース、ネット)は、前年同期比8.0%減の30億4,210万ドルとなった。一方、ポートフォリオ投資(出資比率10%未満)は、株式市場からの外国資金の流出と政府によるユーロ債権の償還などもあり、前年同期のマイナス5,310万ドルからマイナス9億5,750万ドルに資金流出が拡大した。対内直接投資の減少の要因としては、既存の外資系企業による再投資の減少、国際市場の流動性低下、国営企業の民営化案件の遅滞などが挙げられる。

業種別では、最大のシェアを占める通信・IT部門で、携帯電話の加入者数の増加ペースが鈍ったことなどから、投資が一段落し、前年同期比で12.7%減の8億610万ドルとなった。金融(シェア22.1%)は、2008年5月にマレーシアのメイバンクが資産総額4位のMCB銀行の普通株を最大20%(約6億8,600万ドル)取得すること

表3 パキスタンの業種別対内直接投資<実行ベース>

(単位:100万ドル、%)

	2007/08 年度	2008/09年度 (7月~3月)		
		金額	金額	構成比
通 信 · I T	1,625.3	806.1	26.5	△12.7
金 融	1,607.6	672.6	22.1	△28.7
石 油 · ガ ス 採 掘	634.8	555.7	18.3	19.7
貿 易 · 卸 小 売	175.5	140.4	4.6	△5.7
食 品 包 装	n.a.	100.5	3.3	16倍
石 油 精 製	74.5	93.3	3.1	51.1
電 力	70.3	78.1	2.6	88.6
個 人 向 け サ ー ビ ス	92.9	73.1	2.4	△3.2
建 設	88.5	73.0	2.4	4.7
自 動 車 · 二 輪 車	111.5	64.5	2.1	△12.2
外 国 投 資 計	5,152.8	3,042.1	100.0	△8.0

〔注〕食品包装は、2007/08年度と2008/09年度で分類が異なるため、2007/08年度をn.a.とした。

表4 パキスタンの国・地域別対内直接投資<実行ベース>

(単位：100万ドル、%)

	2007/08 年度	2008/09年度 (7月～3月)		
		金額	構成比	伸び率
米 国	1,309.3	705.5	23.2	△36.0
モーリシャス	356.7	306.3	10.1	△7.8
シンガポール	24.8	241.8	7.9	10.6
マレーシア	656.4	217.3	7.1	n.a.
英 国	460.2	204.6	6.7	△26.7
ス イス	169.3	203.8	6.7	60.5
アラブ首長国連邦(UAE)	588.6	163.4	5.4	△49.3
ノルウェー	275.0	91.5	3.0	△31.9
香 港	339.8	89.4	2.9	3.0
オーストラリア	69.6	68.3	2.2	34.7
日 本	131.2	60.3	2.0	△34.8
外 国 投 資 計	5,409.8	3,042.1	100.0	△8.0

に合意するなど、上半期は好調であったが、世界的な金融危機の影響を受け、28.7%減の6億7,260万ドルとなった。石油・ガス採掘は、PBパキスタン、ENIパキスタン、BHP石油パキスタンが積極的な投資を進め、19.7%増の5億5,570万ドルとなった。その他分野では、テトラパック(スウェーデン)が包装材工場を建設したことにより、食品包装は前年度の630万ドルから1億50万ドルに大幅増となった。

国別では、1位の米国が前年同期比で36.0%減の7億550万ドル、2位のモーリシャスが7.8%減の3億630万ドルといずれも減少した。また、サウジアラビアは前年の3,360万ドルからマイナス3,720万ドル、中国は前年の1,260万ドルからマイナス5,170万ドルとなり全体のマイナス成長を下押しした。

■ルピー安で日本からの輸出が減少

日本の通関統計によると、2008年の日本のパキスタン向け輸出は、前年比7.1%減の14億4,435万ドル、輸入は72.1%増の4億2,908万ドルとなった。前年に引き続き、

表5 日本の対パキスタン主要品目別輸出入

	輸 出 (FOB)				輸 入 (CIF)				
	2007年		2008年		2007年		2008年		
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	伸び率		
輸送用機器	639.2	34.6	499.9	34.6	△21.8	鉱物性燃料	103.1	38.1	58.7
自動車	403.7	22.3	322.2	22.3	△20.2	石油製品	103.1	38.1	58.7
自動車の部分品	220.1	11.3	162.9	11.3	△26.0	原料別製品	85.8	38.5	92.6
一般機械	418.5	26.8	386.9	26.8	△7.6	非鉄金属	4.6	17.8	1,574.0
原動機	121.5	8.8	127.6	8.8	5.0	織物用糸・織維製品	65.7	17.7	15.5
織維機械	83.7	64.0	44.4	△23.5	原 料 品	21.0	5.6	13.7	
原料別製品	200.2	16.7	241.0	20.4	そ の 他	18.8	4.2	△5.1	
鉄鋼	97.2	140.6	9.7	44.7	衣類・同付属品	8.8	1.9	△6.5	
電気機器	161.1	186.7	12.9	15.9	化 学 製 品	12.1	50.1	314.3	
化学生産品	66.9	67.0	4.6	0.2	有機化合物	12.1	49.8	313.6	
総額	1,555.5	1,444.3	100.0	△7.1	総額	249.4	429.1	72.1	

[出所] 財務省「貿易統計(通関ベース)」から作成。

輸出が減少し輸入が増加したものの、依然として日本側の大幅な輸出超過が続いている。その規模は10億ドル以上となっている。

日本側の輸出はルピー安と内需不振の影響で減少し、特に輸出全体の6割のシェアを持つ輸送用機器と一般機械の落ち込みが目立った。輸送用機器の内訳をみると、乗用車が、パキスタン国内の販売台数の減少を反映し46.5%減となっている。一般機械(7.6%減)の内訳では、織維産業の不振を背景に、織維機械が23.5%減となったほか、建設需要が減少した建設用・鉱山用機械が48.4%減となった。

一方、日本の輸入は、輸入総額の約4割を占める石油製品が58.7%増となった。パキスタンでは、中東から原油を輸入し精製して国内で消費している。しかし、同過程において半製品として生成されるナフサから化学製品を製造する技術を有しておらず輸出に回る構造となっている。そのため、ここ数年、パキスタンからのナフサ輸出が増加傾向にある。その他主要品目では、非鉄金属が銅の輸入増により16.7倍、有機化合物はエタノールの輸入増により4.1倍となり、輸入総額を押し上げた。

■日本からの自動車産業向け投資が減少

2008年7月～2009年3月の日本からの直接投資額(パキスタン中央銀行データ)は、前年同期比34.8%減の6,030万ドルとなった。主要分野である自動車産業向け投資の減退が主な原因とみられる。パキスタン自動車工業会(PAMA)によると、2007/08年度の乗用車の生産台数は前年度比6.4%減、2008/09年度の当初9カ月(7月～3月)はさらに落ち込み、前年同期比で48.1%減となっている。自動車ローンの金利が上昇したこと、原材料の高騰やルピー安で販売価格が上がったこと、インフレで消費マインドが冷え込んだことでパキスタンの自動車産業は苦戦を強いられている。